

開会の挨拶：中島 秀敏 文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官

1 はじめに

本日の「地震・防災に関するセミナー ―いつか来る大地震に備えて ～防災教育を考えよう～ ―」の開催に当たり、主催者の一員としてご挨拶申し上げます。

私、文部科学省地震・防災研究課地震調査研究企画官 中島と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、本セミナーにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

2 地震セミナーの意義

本日のセミナーは、「―いつか来る大地震に備えて ～防災教育を考えよう～ ―」をテーマに、文部科学省と千葉県とが共同で主催しております。

既に皆様お感じの通り、ここ千葉県では、さまざまな地震が日常的に数多く発生しております。本日、私の方から後ほどご説明いたしますが、千葉県にゆれをもたらす地震の影響は、南関東における地震や、太平洋プレート内の地震などがあります。本日、紹介する地震の発生確率を示した地図では、この千葉県の多くが赤色、すなわち、地震発生確率が高い区分に位置付けられており、津波対策を含め、将来、大地震が起きることを前提にした実効性ある対策が必要です。この、詳しい対策については、本日の講師の先生方からもご説明いただけることと思います。

そもそも、本地震セミナーの目的になりますが、私ども文部科学省地震・防災研究課などが事務局をしております「地震調査研究推進本部地震調査委員会」の評価の結果など、地震調査研究の最新の成果を、地域の方々にわかりやすく提供し、防災意識の高揚や具体的な防災対策に有機的に結びつけることを目指したものです。本年は、全国 12 箇所で開催することになっており、本日のセミナーは、第 5 回にあたります。

3 地震調査研究推進本部

さて、その「地震調査研究推進本部」は、政府の特別の機関として設置されているもので、文部科学大臣が本部長を務めております。

設置の契機は、平成 7 年 1 月に発生した阪神・淡路大震災です。当時、地震に関する調査研究はそれなりに進んでいたものの、その成果が国民や防災を担当する機関に十分に伝達され、また、活用される体制になっていなかったという課題意識がありました。そこで、行政施策に直結する地震に関する調査研究の責任体制を明らかにし、これを政府として一元的に推進するため、震災のわずか半年後に議員立法で設置された、という経緯がございます。

4 おわりに

本日のセミナーによって、千葉県及び関東地方に影響を及ぼす地震に関する知識が更に深まり、そのことが今後の防災活動の取組に活かされていくことを期待するものであります。

本日、ご出席の皆様のご積極的なご参画により、セミナーがその目的を達成することを
祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

開会の挨拶：木村 正利 千葉県防災対策監

皆さんこんにちは。千葉県の防災対策監と危機管理監をやっております木村といたします。本日は平日にも関わらず多くの方々に地震・防災に関するセミナーに御参加いただきまことにありがとうございます。

文部科学省と共催する本日のセミナーは、地元松戸市のご後援をいただき、皆さんの関心の高い地震の話を中心に、被害を出さないため、また被害があってもそれを最小限にとどめるため学校、地域、行政が行う防災教育について、京都大学の林春男先生に御講演いただきます。

また、教育関係者や地元松戸市の自主防災組織の方とのパネルディスカッションを行い、地震についての理解を深めていただくと共に、その知識を地域や子供達へどう伝えていくのかを、考えていただくきっかけにしていきたいと思っております。

さて、千葉県はここ 80 年くらい、大きな地震はありませんでした。しかし、かつては大きな地震の被害がありました。一例を申し上げますと、房総半島の先端部分には、300 年前の元禄地震や更に古い時代の地震の爪跡が、地盤の隆起という形で何段も残り、階段段丘を形成しています。また、海岸沿いには津波で亡くなった方を慰霊する千人塚等の石碑が数多くあります。

最近では、千葉県では昨年の 4 月の 11 日に震度 5 強、同じく 7 月 23 日には震度 5 弱の地震が観測されました。幸いなことに被害は少なかったですが、松戸市も揺れが少なくてすみしました。この地震では、首都圏各地では、鉄道などの交通機関が麻痺し、エレベータに閉じ込められるなど、大都市特有の新たな災害が発生しています。

全国的に見ると、皆さん御存知のように 2 年前の 10 月 23 日には新潟県で新潟県中越地震、67 名の死者と約 4,800 名の負傷者、約 16 万棟の建物被害がありました。

そして、防災に非常に関心を強めましたのは、11 年前の阪神・淡路大震災で、これは 6,433 名の方がなくなりました。約 44,000 名の方が負傷し、約 51 万棟の住家被害がありました。

このような大きな地震は、たまたま千葉県では起きていないだけなのです。千葉県で起きる可能性も十分あるのだということを肝に命じていただければと思います。

昨年の千葉県の有感地震、皆さんが肌で感じる地震というのは、松戸市を含めまして千葉県では三日に一回という頻度で地震が起きています。そういうことから、今年の 8 月に行いました県政に関する世論調査では、災害から県民を守ることがベストスリーに選ばれています。県民の皆さんの防災に対する関心の高さがうかがわれます。

このような地震に備えるために、県は何をしているのかといいますと、第一義的には皆さんのお住まいの市町村が対応されます。県は広域的な調整、応援といった役割分担になっています。

県ではこのような阪神淡路大震災や新潟県中越地震を踏まえまして、県の地域防災計画を今年度中に見直して、新しく改訂するつもりでございます。

また、二日前には県内に津波注意報が発令されました。幸い千葉県には、注意報というのは 50 cm ですが、結果的には 10 cm の津波が到達しました。過去には、太平洋岸で最大 8m の津波がありました。注意報のあった 50 cm は、専門家が今日は大勢いらっ

しゃいますが、人が座っていると流されてしまう。そういうことで、津波による被害状況のシミュレーションをやりまして、沿岸市町村が津波ハザードマップを作る支援を行っています。

先ほど言いましたように、首都圏で地震が起きると、千葉県に帰るための帰宅困難者が多く出ます。帰宅困難者の帰宅の方法などを検討するために、幕張地区から千葉を抜けまして、江戸川区まで約 20 km の帰宅困難者徒歩帰宅訓練を行うこととしています。何らかの帰宅困難者対策ということでコンビニやガソリンスタンドに御協力いただいて訓練を実施することとしています。

また、重要なことは、防災情報を市町村や皆さんにいかにすばやく伝達するかということです。県では 3 年かけて平成 19 年 4 月の運用開始を目指して防災情報ターミナル基盤整備事業を進めています。これは、みなさんへインターネットや携帯を通じて情報提供ができる仕組みとなっています。

また、県内では大きな災害は起きていませんが、県内 11 箇所には非常食約 30 万食、水を 10 万本備蓄しております。松戸、柏の東葛方面は、松戸市にある西部防災センターに備蓄しています。いざというときには市町村と共に対応したいと思っております。

先ほど触れましたが、大きな災害がありましたら県内のコンビニエンスストアやガソリンスタンドと協定を結んでおりますので、トイレや水などの援助が受けられます。

このようなことは「自助」「共助」「公助」のなかの「公助」といわれます。公助の救助は、大規模な災害になりますと、1 割にも満たない。大きな災害には自分の身は自分で守るという「自助」、自分の地域は自分で守るのだという「共助」、この力が大きいです。この自助、共助、公助の三つの力がうまく行けば災害が起きても被害を最小限に防げるのではないかと考えます。

そこで、県としましては、地元松戸市にございます西部防災センターと千葉市にある消防学校で「災害対策コーディネーター養成講座」、「災害対策ボランティアリーダー講習会」を開催しまして、災害ボランティアのリーダーとして活躍できる人材を養成し、今年も多くの人に受講いただいております。

皆さんに考えていただきたいのは、地震等の自然災害が来たときに、どう対処するかというのは、備えが大切だと思います。備えがあることで、災害現場でどのように判断するのか、どう行動するのか、大きな違いが出てくると思います。皆さん一人ひとりが災害時にはどう行動するのがということが大切です。ということで先ほど申し上げましたようにリーダーを養成するというのも大事なことです。

そのため、家庭でも学校でも地域や社会で学ぶ、ということが防災教育ではないかと思えます。

そして、昔はお年寄りから言い伝えを聞くなどして自然に行われていた家庭や地域での「防災教育」が行われなくなっているように思われます。

幸い本日のセミナーには、県民の皆様、教育関係の皆様、企業関係の皆様が大勢参加されています。今後は家庭や地域、教育現場や社会でどうやって知識を伝えていき、力を合わせて一緒に災害に強い地域を作るか、それぞれの立場で考え、連携して防災教育を進めていきたいと考えております。

本日のセミナーでは、実際に学校の現場で教育に携わっている先生方や地域の自主防

災組織のリーダーとして防災活動を実践されている方にパネラーとして登場していただきます。

ここでの御意見につきましては、県といたしましても今後の防災施策の参考にさせていただきたいと考えておりますが、本日御参加いただきました皆様におかれましてもこのセミナーで一つでも二つでも、学んでいただいたことを地域や職場で御活用いただきたいと思います。

本日のセミナーを契機として、県民の防災意識の高揚が図られ、また防災教育の広がりにも資することを期待しまして、開会にあたっての私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。